



「ツーリング中です。」



門脇
かどわき
紫音ちゃん(左)
しのん
4歳
新町
(新町)
龍田ちゃん(右)
りゅうたん
1歳

「明るく元気に育って！」



宮国
みやぐに
郁奈ちゃん
かずな
1歳
(八潮三)

短歌	行	つてみたいな	と	なりまち
門脇 かどわき 紫音ちゃん(左) しのん 4歳 新町 (新町) 龍田ちゃん(右) りゅうたん 1歳	門脇 かどわき 紫音ちゃん(左) しのん 4歳 新町 (新町) 龍田ちゃん(右) りゅうたん 1歳	門脇 かどわき 紫音ちゃん(左) しのん 4歳 新町 (新町) 龍田ちゃん(右) りゅうたん 1歳	門脇 かどわき 紫音ちゃん(左) しのん 4歳 新町 (新町) 龍田ちゃん(右) りゅうたん 1歳	門脇 かどわき 紫音ちゃん(左) しのん 4歳 新町 (新町) 龍田ちゃん(右) りゅうたん 1歳
久々に墓参のための里帰り 変わらぬ人々のぬくもりを知る 蝉のあはれや束の間の夏 さざ波の踊る川面の春風に 羽音軋ませ水鳥の舞う 中央一猪瀬利助	久々に墓参のための里帰り 変わらぬ人々のぬくもりを知る 蝉のあはれや束の間の夏 さざ波の踊る川面の春風に 羽音軋ませ水鳥の舞う 中央一猪瀬利助	久々に墓参のための里帰り 変わらぬ人々のぬくもりを知る 蝉のあはれや束の間の夏 さざ波の踊る川面の春風に 羽音軋ませ水鳥の舞う 中央一猪瀬利助	久々に墓参のための里帰り 変わらぬ人々のぬくもりを知る 蝉のあはれや束の間の夏 さざ波の踊る川面の春風に 羽音軋ませ水鳥の舞う 中央一猪瀬利助	久々に墓参のための里帰り 変わらぬ人々のぬくもりを知る 蝉のあはれや束の間の夏 さざ波の踊る川面の春風に 羽音軋ませ水鳥の舞う 中央一猪瀬利助
長雨にはや立秋も過ぎたれば 妻となりわれ母となり五十年 平成を生き思ひは深し 白浜の砂にもぐりて波音を 聞きつまどろむ排毒せむと 思い馳せ十九の春に出でしわれ	長雨にはや立秋も過ぎたれば 妻となりわれ母となり五十年 平成を生き思ひは深し 白浜の砂にもぐりて波音を 聞きつまどろむ排毒せむと 思い馳せ十九の春に出でしわれ	長雨にはや立秋も過ぎたれば 妻となりわれ母となり五十年 平成を生き思ひは深し 白浜の砂にもぐりて波音を 聞きつまどろむ排毒せむと 思い馳せ十九の春に出でしわれ	長雨にはや立秋も過ぎたれば 妻となりわれ母となり五十年 平成を生き思ひは深し 白浜の砂にもぐりて波音を 聞きつまどろむ排毒せむと 思い馳せ十九の春に出でしわれ	長雨にはや立秋も過ぎたれば 妻となりわれ母となり五十年 平成を生き思ひは深し 白浜の砂にもぐりて波音を 聞きつまどろむ排毒せむと 思い馳せ十九の春に出でしわれ
遠い北国八戸偲ぶ 南川崎 松谷永子	南後谷 小田三重子	南後谷 小田三重子	南後谷 小田三重子	南後谷 小田三重子
どこからか良寛の声のするような 芽葺き屋根の古き山寺	母を待つ畦の小道や月見草	母を待つ畦の小道や月見草	母を待つ畦の小道や月見草	母を待つ畦の小道や月見草
二丁目 田中祐子	西袋 加藤美恵子	西袋 加藤美恵子	西袋 加藤美恵子	西袋 加藤美恵子
二丁目 小野みちくさ	湯上がりのビール一気に夏来る	湯上がりのビール一気に夏来る	湯上がりのビール一気に夏来る	湯上がりのビール一気に夏来る
奥野武雄				

中学生が考える
まちづくりに学ぶ

八潮青年会議所理事長・藤波達也

去る8月26日、メセナ集会室において、5市1町中学生選抜対抗ディベート「5市1町合併！是か非か未来の主役たちの想い」を開催しました。

これは、「ディベート」という討論の手法を競うゲームを通して、次世代を担う中学生たちに、将来向けてのまちづくりに対しての知識を深めていただき、私たち大人も中生の斬新な発想に触れ、新たな発見を得ようと、東さいたまJC協議会(八潮・三郷・草加・越谷・吉川の青年会議所により組織)が企画し、主催したものでした。

4回の勉強会を設け、市町村合併の

研究、来場した大人の方々が改めて合併問題を考える良いきっかけになつたと思います。一番大切なことは、私たち住民が、私たちのまちづくりをどうして行きたいかという意見を持ち、他とも交流し、選択していくことであると考えます。

今後も、さまざまな試みを通じて、私たち地域住民の輪が更なる広がりが持てるよう、まちづくりを追究していきたいと思います。

今後も、ささまざま試みを通じて、私たち地域住民の輪が更なる広がりが持てるよう、まちづくりを追求していきたいと思います。

杉の木は、あの日の痛みを抱いたままたくましく成長していた。木を見上げると、大きくひろげた枝葉のあいだから青い空が片々と光になつてこぼれ落ちた。裂かれた杉の木が、たくましく成長したのはすごいですね。

〈評〉何十年前に、落雷によって幹を折られた杉の木が、たくましく成長した。スイカ切り競つて食べる子等の顔が、大きくひろげた枝葉のあいだから青い空が片々と光になつてこぼれ落ちた。雨続く一夜の宿とんぼは、遠き日のおさげもんへの終戦日には、まさに花火や児の瞳。

久々に墓参のための里帰り

変わらぬ人々のぬくもりを知る

蝉のあはれや束の間の夏

さざ波の踊る川面の春風に

羽音軋ませ水鳥の舞う

中央一猪瀬利助

久々に墓参のための里帰り